

# 自転車で楽しむ 周遊コース 1周16km

Route  
おきよめの湯—分教場跡—大河内森林公園—  
新野千石平道の駅—おきよめの湯



神原の巻

# 天龍村を歩いて知ろう

## 神原を知る豆知識

天龍村神原は、静岡・愛知・長野の三県の境にあり伝統芸能の宝庫な里です。中世、平氏の隠れ里でもあり、そこそこに風趣に富んだ情景がひろがる山里です。天竜川、大河内川、早木戸川沿いのわずかな安らぎの地に、先人の暮らしや祈りを大切につないできた人々が住んでいます。山間地ゆえの不便さに負けず、県境を越えた交流の絆を深め、人とのつながりを大切にしています。山深い里の素朴な暮らしだからこそ、「生きる力を育む」学びの里としての環境づくりが行われています。せせらぎの音、鳥の声、自然の音色を楽しみながら、神原の集落を歩いたり、祭りの日には祭り人と一緒に祭りを楽しんでください。



## 伝説と学びの里 向方

今から620年前、伊勢の人、村松正氏は、一族の住む場所を求めて山中に分け入った。すると一匹の狼が現れ、狼に案内されるかのごとく歩を進めるが、あまりにしつこい狼を殺してしまった。ふとあたりを見回すとそこは平らな場所であった。こうして一族は向方に住みついた。正氏の妻の病が重くなったのは山の神に姿を変えた狼を殺したことだとのお告げにより、屋敷内に狼の首を山の神としてまつた。今日では「生きる力」を育む学びの里として新しい環境づくりがはじまっている。

## 祭りと歴史悲話の里 大河内

天文13年(1544)、このあたりを治めていた関氏は隣村の下條氏に滅ぼされてしまった。関氏の奥方お万様と5歳の息子長五郎は追っ手を逃れ家来の案内で逃避行を続けた。大河内の里へ入ったとき、突然家来は寝返り母子を殺してしまった。里人は哀れに思い、二人の墓をたて毎年8月13日に供養をしている。池大神社の霜月神楽は一年中の無病息災を祈り、鹿追い行事は豊作を祈願する祭りである。人と動物が共存してきた山里ならではの暮らしがある。

## 県境の隠れ里 坂部

南北朝時代、新田義貞を父に、熊谷直実を先祖とする母から産まれた熊谷貞直は、追っ手から逃れるためにわずかな家来を伴い天竜川を遡り山中に分け入り、文和元年(1352年)天龍村坂部の奥地に住んだ。三代当主直吉の時、現在の坂部に居を移した。その晩直吉は不思議な夢をみた。それが坂部の冬祭りの始まり。以後連続と祭りは行われている。熊谷家が江戸時代末まで代々語り継いできた『熊谷家伝記』は興味深い。坂部の里は中世の面影をいまに残す里。

## 天龍村文化財 コースマップ



発行 天龍村教育委員会 電話.0260-32-3206 FAX.0260-32-1010  
長野県下伊那郡天龍村平岡1234-1 E-mail s-kyoiku@vill-tenryu.jp

平成22年度長野県地域発元気づくり支援金事業で作成されました。